

ふるさと の138 の誇り

史跡御勅使川旧堤防（将棋頭・石積出）

整備基本計画の策定

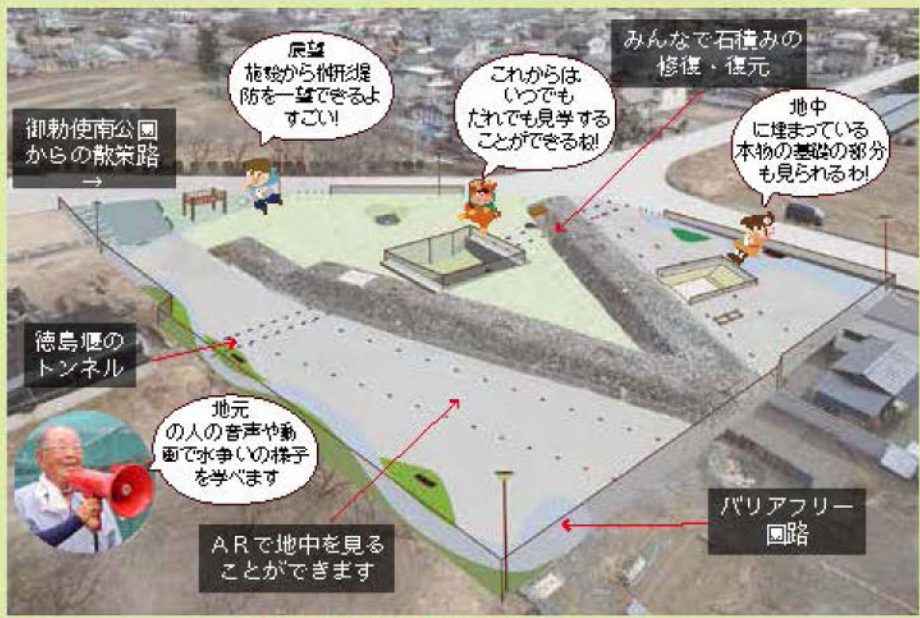
文化遺産を未来へ受け継ぐ



史跡整備基本計画 2018～2032

- ### 史跡整備基本方針
1. 調査研究の推進→整備するための基盤になります
 2. 保存のための整備の推進→破損箇所などを修復。次世代へつなげます
 3. 史跡の特性を活かした積極的な公開・活用の推進
 4. 歴史を活かしたまちづくりの拠点としての整備
 5. 地域と連携した持続可能な整備と多面的活用の推進

- 治水・利水の歴史を学びたい
- 水害など防災を考えた学びたい
- ひとつひとつが笑える場所
- 周辺の地域資源を結び観光
- 日々の散策路



史跡とまちづくりの歩み

「歴史や文化のないまちづくりなんてありえない」。名執事・旧白根町長のこの言葉を、市文化財保護審議会の元会長である谷口一夫さんはよく覚えていました。谷口さんは名執事長から依頼され、地域の文化遺産とともに踏査し、やぶに囲まれた石積出を再発見したんです。と話されていました。今から30年以上前のことです。旧白根町は、その後昭和62、63年に将棋頭の発掘調査を実施し、その成果をもとに国の指定史跡に向けての意見をまとめ、平成3年に具申しました。それから10年余りの時を経て、平成15年3月、南アルプス市が誕生する直前に「御勅使川旧堤防(将棋頭・石積出)」という名称で、御勅使川を治めた堤防が国史跡に指定されました。河川堤防としては全国で2例目の指定であり、文字通り日本の治水利水を代表する史跡となりました。(※1)

史跡整備基本計画とは

こうした史跡を適切に保存し、次世代に伝えるため、平成26年度から、歴史・考古・景観等の専門家や有野六科地区の住民で構成された保存整備委員会が検討を重ねられ、平成29年3月、史跡の整備基本計画が策定されました。(※2,3,4)

計画は平成30年(2018年)から2032年までの15年間で、保存の前提となる調査を進めながら、18年から22年で枡形堤防、23年から27年で石積出、28年から32年で六科将棋頭を整備することを目標とします。

計画の基本方針は、次頁に掲載しました。ふるさと〇〇博物館事業とも連携して調査・研究を進め、史跡の価値を高めたいとします。そして、この貴重な「遺産」を次世代に継ぐため、地域のみなさんにとともに石積みの補修などを実際に行ない、地域も世代も超えたさまざまな人々が現地を訪れ、見学体験で感じる整備を目指しています。

2018～2022 短期計画 枡形堤防整備

2023～2027 中期計画 石積出整備予定

2028～2032 長期計画 将棋頭整備予定

みんなで守り伝える整備の時代

最初の整備対象となっている枡形堤防は、現在立ち入り禁止となっていますが、数年のうちに石積みを修復し、安全に配慮した自由な散策ルートを設置する予定です。さらに文化財Mナビやふるさと〇〇博物館ウェブサイトに連携した案内板、展望施設や休憩施設を整備します。整備後は誰もが楽しめる憩いの場として、徳島堰をはじめとする利水や治水の歴史を学び体験する場として、南アルプス市独自の観光資源として、近接した御勅使南公園からの散策ルートとして活用できるようにします。

これまで、市内の小中学校や地区をはじめ国や全国の県、市町村、大学やさまざまな団体が史跡を訪れています。平成30年10月14日には全国史跡整備市町村協議会(全史協)の会員が現地視察を行ないました。全国から集まった市の首長や文化財の担当者を中心に、石積出三番堤では、その仕組みや歴史、次世代へつなぐ大切さを、地元の白根源小6年生が劇で表現しました。また、枡形堤防では90歳の男性が水争いの体験談をユーモアをまじえて話されました。53年続く協議会でも、こうした地域の人々によるプレゼンテーションは初めてのことだったかもしれません。

「史跡を守るってこういうことなんだな」。参加者のなげない一言が、人と人、人と史跡がつながり文化遺産を活かし受け継いでいく道標のように感じられました。

※3 平成30年2月27日開催の教育委員会において承認、「(南アルプス市史跡御勅使川旧堤防(将棋頭・石積出)整備基本計画について」第40号)。

※4 史跡整備基本計画は市立図書館・文化財課で閲覧できます。また南アルプス市ホームページで公開しています。

※1 平成26年に枡形堤防が追加指定され、石積出～三番堤、枡形堤防、六科将棋頭で御勅使川旧堤防(将棋頭・石積出)は構成されています。

※2 本計画は「第2次南アルプス市総合計画・第2次・第3次実施計画」(4「心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成」)および「南アルプス市教育大綱」に位置付けられています。